

広報させぼ 情報カレンダー 03. 9月



日	月	火	水	木	金	土
	1 防災の日	2	3 中小企業金融 公庫出張相談	4	5 コミュニティーセ ンターで防災気 象講演会	6 水を大切にす日
7 とじょかんこどもまつり	8	9	10 下水道の日	11 民事介入暴力特 別相談所開設	12 発明相談	13 西地区公民館で 宇宙の日記念行 事「宇宙教室」
14 秋の動物まつり (15日、21日、 23日も) 佐世保漁港お魚 まつり	15 敬老の日 SASEBO九十九 島祭り・ミュージ ックフェスタ2003	16	17 市立総合病院の 健康教室	18	19 九十九島の日	20 市営バスまつり 法律・福祉無料 相談会
21 森のつどい 市民わくわく ニュースポーツ フェスティバル	22	23 秋分の日	24 市幼児教育セン ターで子育て講 演会	25	26	27 近代化遺産見学 会 子どもパソコン教 室
28 健康と福祉フェス ティバル・健康ウ オーキング 国民健康保険の 日曜相談	29 出前保育「みんな よつどいでー!」	30	9月・10月の主な行事予定 9月は敬老月間 9/13 外国からやってきた生き物たち展～12月14日 9/15 市立図書館、早岐・相浦地区公民館の図書室が 休館～24日 10/ 1 不動産鑑定士の無料相談会 10/ 2 県美術展覧会(県展)佐世保会場展～12日 10/ 5 キリンに接近!、無料建築相談窓口開設 10/10 市中学校体育大会(駅伝競技) 戦没者追悼式、 三川内陶器市～14日			
毎月第1水曜	中小企業金融公庫出張相談 (13～15時、佐世保商工会議所)					
毎月第2金曜	発明相談(10時～15時30分、 市役所10階)					

テレホンガイド

救急・火災
医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

女性相談
スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時～16時)

教育相談
青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分～
20時30分には、夜間相談も受け付けます)

エイズ相談
保健所健康づくり課 ☎0120-104-783

9月の健康テレホン
県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 胆のう炎 火 成人の股関節の痛み
～変形性股関節症について **水 子どもの**
白血病 木 補聴器の進歩 金 妊娠時の
歯の健康管理 土、日 新生児の聴力検査

2003.9 おわびと訂正 8月号8ページ「機構改革のお知らせ」で機構改革に伴い廃止する部署が「総務部総務課防災係」とあるのは「総務部総務課防災対策係」の誤りでした。広報係からおわびして訂正します。

人のうごき
(8月1日現在)

総人口 239,724人 (-292)
男 112,729人 (-230)
女 126,995人 (-62)
世帯数 93,127世帯(+27)

7月中のうごき

転入 734 **転出** 1,044
出生 178 **死亡** 160

**見て、聞く
させぼ
市政だより**

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)
NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ
NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分
FM長崎マイシティ
マイタウン 毎週土曜日 8時55分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄

こんにちは市長です。



思春期の子ども対策

ことし3月、エイズ予防などの専門家である京都大学大学院の木原雅子助教授から、長崎県内の思春期の子どもたちに関するお話を伺いました。残念なことに、佐世保市の10代(15～19歳)の妊娠中絶率が県下でも非常に高いということでした。この実態から性病のまん延なども考えられます。

市としても、匿名を前提にHIV(ヒト免疫不全ウイルス)検査などを実施してきましたし、平成14年には若者向けに啓発用パンフレットやポスターをいわゆる盛り場に張り出しました。しかしながら、この実態は一層深刻化するものと思われます。そこでことし7月に「思春期の性教育推進委員会」の設置要綱を策定しました。既に活動をしておられた14人の方々を推進委員にお願いし、これを機にさらに活発な事業を推進していただくことになりました。わが国の性教育は遅れており、特に家庭でどう教えるのか、その手法も確立されていません。

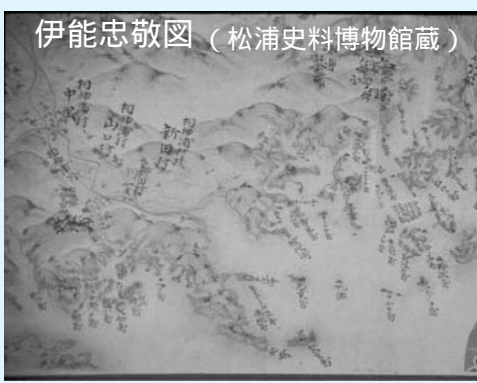
正しい性教育を進めるためには、活動のすそ野をもっと広げていく必要があります。私はことしを思春期の子ども対策の元年とし、一層の強化を図る決意です。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩 れきしさんぽ 458

九十九島の地名推理 (船越町など)

9月19日は「九十九島の日」。そこで今回はちょっと趣を変え、「なぜくじゅうくしまと呼ぶのか、それはいつごろからか」を調べました。ヒントは「甲子夜話」の随想集を書いた第34代平戸藩主静山公松浦清(在位1775～1806年)。そして同時代の俳人松尾芭蕉と紀行文「奥の細道」。彼が訪れた「日本三景」の一つと数えられていた象潟(秋田県)です。



伊能忠敬図(松浦史料博物館蔵)

元禄2(1689)年旧暦3月、芭蕉は「このたび松しま・象潟の眺共にせん」と門弟曾良と江戸を立、まず北上して日本三景の松島と平泉を見て内陸を横断、羽前象潟に出ます。西行法師、能因法師ゆかりのこの地は、当時九十九島とも呼ばれ、潟湖の上にたくさんの

島々が浮かぶ“絶景”だったのです。ところが文化元(1804)年、この地は大地震に襲われ、なんと象潟は隆起して陸地化し、九十九島は島ではなくなったのです。静山公は甲子夜話巻3-30に「象潟の勝景変ずる事」として、「本朝三景の一と称せしが、先年地震にてゆり崩し、入海の水皆干て、今は風景更に無しと云」と書き留めています。後年、芭蕉研究家蓑笠庵梨一は、著書「奥細道管孤抄」の中で、象潟のかつての姿を「八十八潟、九十九森ありと云伝う」と紹介、めでたい数字を重ねて数の多さと絶景ぶりを述べています。

好奇心おう盛な静山公は、全国大名のサロンでもあった江戸で盛んに情報を収集、また地元の動静にも気を配っています。その中で消滅した象潟九十九島に代わり、「わが領内にも彼の地に劣らぬ名勝の地があるぞ」と近習や家来に話し、それがいつしか藩内での通称に育っていった、今日の九十九島となったのではないのでしょうか。(筒井隆義)